

友だち募集中

全厚労では公式LINEアカウント開設中です



# 全厚労ニュース

全厚生 全国労働組合連合会  
〒110-0013 東京都台東区入谷1-9-5  
TEL 03-3874-3591  
FAX 03-3874-3593  
発行日 毎月20日  
<https://www.zenkouro.org/>

2面  
特別記念講演  
労働経済ジャーナリスト・小林美希さん  
もう一度、現場を見つめ直そう

## マイクデビューに「いき」、手応え「びん」

### 第35回看護集会・23秋ナースウェーブ in横浜



10月13〜14日、神奈川県横浜市ホテルプラムにて、全厚労第35回看護集会を開催し、16県93名（現地76名、web17名）が参加しました。記念講演は労働経済ジャーナリスト・小林美希さんをお呼びし、「看護師が働き続けるために〜看護現場の現状と課題」の現状と課題」と題しお話し頂きました。

週刊誌などのメディアで看護師の過酷な労働実態や、使用者側のコンプライアンス違反が相次いで報道されていることを踏まえ、医療現場を客観的に取材する記者の立場からのお話で、もう一度自分たちの職場を見つめ直そうと企画しました。初日の16時から、横浜駅西口に移動し、17年秋闘ぶりに全厚労独自のナースウェーブを開催。横断幕を持つスタッフや署名の訴え、全厚労看護委員4名と四役3名のマイクリレーで、農山村地域やへき地医療現場での人手不足、処遇改善に向けた診療報酬大幅引き上げなどを訴えました。

行動は3名1組の18班に分かれて行い、30分という短時間での取り組みでしたが、国会請願署名179筆を集めました。JR西口から高島屋にかけて常に人が流れる場所でも、初めて圧倒されながらも、初めての街頭宣伝を行った参加者からは、「最初は不安だったが嬉しくて、声かけが楽しくなった」、「若い人や看護学生、医者の卵などからも頑張つてと声をかけられ行動の必要性と世論の関心の高さを感じた」等の感想が寄せられました。

2日目は広厚労から「年休・夜勤制限の取組」と、山厚労から「勝ち取れ！リフレッシュ休暇」の特別報告。その後の分散会では、特別報告を聞いての感想交流や、今後の具体的な取組み、各県の情報共有や、秋闘で全厚労が財務大臣、厚労大臣宛に取り組んでいる「一言署名」記入などを行いました（特別講演・グループワーク詳細2面）。

#### 看護集会プログラム

- 1日目（13日）
  - 特別記念講演 小林美希さん  
看護師が働き続けるために〜看護現場の現状と課題
  - 秋のナースウェーブ in横浜駅西口

- 2日目（14日）
  - 特別報告 広厚労・「年休・夜勤制限の取組」
  - 特別報告②山厚労・「勝ち取れ！リフレッシュ休暇」
  - 分散会
  - 全体まとめ集会

第35回看護集会

特別記念講演

看護師を取材して分かったこと

自己犠牲でない心ある看護を

労働経済ジャーナリスト 小林美希さん

過酷な現場を知り 取材続ける

看護が「作業」になつていないか



私は経済記者から「就職氷河期」の派遣社員・非正規雇用の問題を追うなかで労働問題を取り上げるジャーナリストとして特化し、同世代のライフステージから周産期医療や保育についても取材するようにしました。就職氷河期では手に職をつける医療関係に人があり取材してみたのがきっかけで、医療現場が驚くほど過酷なこと、看護師の切迫流産など異常出産の多さにも気づかされました。また取材する中で看護師には自分たちの大変な問題も明るく話せる人や社会に意識を向けた魅力的な人が多く、このままやりがいを持つた大変な現場のままではいけないと感じ、取材を続け書籍刊行に至りました。

都内大病院に勤める看護師への取材からコロナ対応の過酷な状況を聞き、夜勤のない美容関係のクリニックに転職する看護師が続出し、実習ができないまま入職した新人やベテランが疲れ果てバーンアウト寸前という状況が分かりました。しかしコロナ以前から現場は看護師不足で崩壊寸前、または崩壊していると思えます。

人手不足は看護師の健康や家庭を犠牲にし、看護が「作業」と化すことで、ますますやりがいを失い離職を促してしまします。夜勤の間、認知症で徘徊する患者を車いすにベルトで縛ってナースステーションに集め、食事の時はテーブルに固定し一斉に流れ作業で食事介助を行うなど、精神科



講演資料① 初のナースウェーブ・白衣パレードの様子

「看護が失われているのでは」と感じるのだと思います。

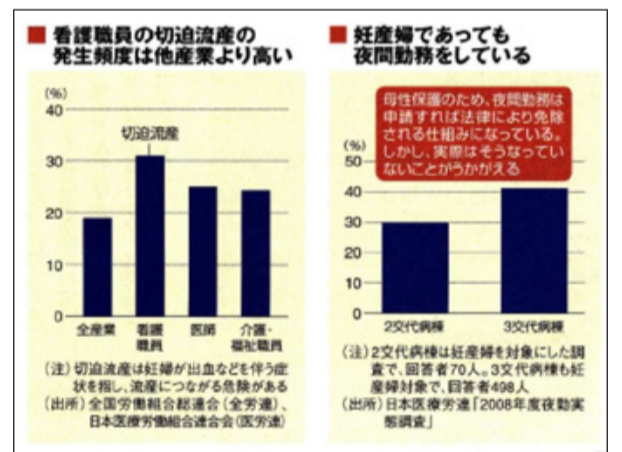
白衣で街頭に出る 意味は大きい

現場は大変ですが、労働組合の運動の成果で看護師確保法ができ、厚労省から5局長通知が出るなど成果をあげてきたことから「明るく楽しく」運動を行うこと。1989年ナースウェーブが始まった時（講演資料①）のように街頭に出て、白衣を着て皆の前に出ていくことが非常に重要でした。

また労働組合が定期的におこなっている経年調査は、客観的な指標となり、世の中を説得するために大切だと感じます。私は2009年に医労連の調査で分かった「看護師の切迫流産が3割を超えている」ことを経済誌で記事にしたいと思いましたが、編集からは「看護師の切迫流産率が他の職種より高くなければ記事には出来ない」と言われました。あらゆること

調査結果が 社会に訴える力

は、母親たちが路上に出てきてくれたので写真やテレビで取り上げることが出来ました。そして全国的にワッと火がついて保育や待機児童の問題が政治的な課題になり、国の目玉政策にまでなりました。路上に出て、私たちの抱えている問題を訴えることは、マスコミで取り上げられ広がるきっかけとなります。



講演資料② 看護師の切迫流産について掲載したデータ

調査がなければ活字（記事）にならなかつたと痛烈に感じました。

今後の私たちの課題

医療は「社会的共通資本」で、社会の共通財産です。患者の尊厳を守るために看護師がいて、良い看護の実現のためには看護師を守っていくこと。自己犠牲ではなく、心ある看護のための運動を今一度盛り上げていければと感じています。皆さんは自分の家族や大切な人を自信を持って働いている病院へ入院させることができますか？

この問いを毎回講演で聞いていますが、手を上げる方はだいたいゼロ人です。これが現状を示していると思います。各職場や仲間と話し合つて「これからどうしていきたいか」深めていって下さい。救急搬送された時、病院は選べません。病院の質がバラバラ、どこへ行つたかで受けるケアが違つてはいけません。アが違つてはいけません。全国で良い看護・医療を目指していきましよう。ぜひ、みなさんの現場のことを教えてください。私も活字を通して社会に問題を訴えていきたいと思えます。（文責・編集部）

グループワークまとめ

看護集会2日目にグループワークを行い各講演やナースウェーブに参加してみた感想のほか、「自分たちが本来やりたい看護」「自分の職場でできること」「社会・行政への働きかけ」の具体案について話し合いました。

まとめ集会では、「患者さんのベッドサイドでのケアや患者家族にも寄り添った看護がしたい」、「看護師の人員に余裕があることが自分たちの本来やりたい看護ができることにつながる」、「職場では部署異動が多いため各病棟ルールをシンプルにすること、希望の異動ができるようにすること」などが話されました。また社会・行政への働きかけでは、ナースウェーブで署名をしてくれた人に「頑張つて」と声をかけてもらえ、署名をしていない人もプラカードを読んでくれていたこともあり、今後も行動が重要だと決意表明もありました。



小林さんも入ってグループワークで意見交換



